

今年のフィールドワークから

ひとはくで行われている研究は、化石の研究から都市景観まで実に多様です。しかしそれらには戸外に研究対象を求めるフィールドワークが基本と言う共通点があります。2005年も様々な地域でひとはくの研究者はフィールドワークを行いました。去年に続いてその一部をご簡単にご紹介します。



① 橋本佳延 研究員他
面積拡大による里山林の荒廃が問題となっているモウソウチク林とマダケ林を三田市内で調査し、マダケ林の多くが天狗巣病を発症して枯れていることを明らかにして、天狗巣病による竹林拡大抑制の可能性を指摘しました。



② 田中哲夫 主任研究員
講座「ため池を探る」で三田市の複数の池のカワバタモロコの数調べていますが、常に密度の低い池があります。ギンブナがいるとこの噂に池干しを敢行、確認後除去。今後カワバタモロコがどう変化するか、楽しみです。



③ 沢田佳久 研究員
生態不明種、ヤマトサルゾウムシのコウホネ類での採集事例があるので、やしろの森公園など社町付近を探索しました。ゾウムシは発見できませんでしたが、ミクリでのキンイロネクイハムシの発生が確認できました。



④ 宮崎ひろ志 研究員・客野尚志 主任研究員
70ほどの小学校（神戸・阪神・東播磨・姫路）のご協力を頂き、校庭の片すみにある百葉箱を活用して自記温度計による都市環境調査を2003年から実施中です。これは県内で最も詳細なヒートアイランド監視ネットワークとなっています。



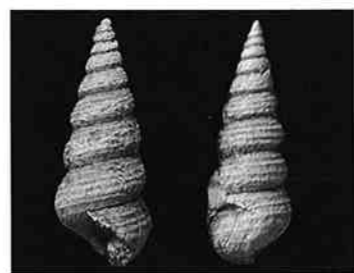
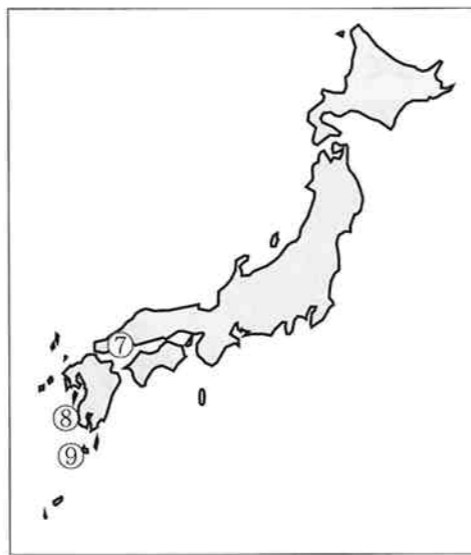
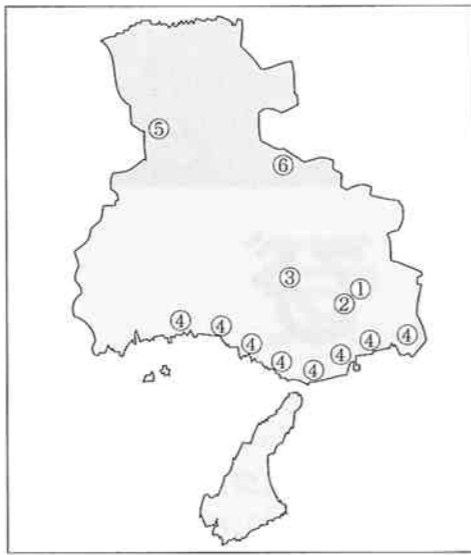
⑤ 岩槻邦男 館長他
2005年8月、氷ノ山の植物調査の際の写真です。ひとはくからは岩槻館長はじめ4人の研究者が参加しました。兵庫県フロンティア研究会のメンバーも加わって、共同で調査の進んでいない、登山道から離れた溪流沿いなどを調べました。



⑥ 坂田宏志 主任研究員
ニホンジカが多い地域で森林を持続的に維持するために必要な森林管理は何か？この疑問に答えるため、丹波市青垣町内の森林にシカ排除柵を設置し、柵の内外における植生の変化をモニタリングしています。



⑦ 大谷 剛 主任研究員
山口県萩市の鳴く虫調査。10月9～10日、鳴く虫研究会「きんひばり」のメンバー5名とともに萩博物館周辺、および萩城址を調査しました。石垣の隙間で鳴いていたスズムシなど、19種の鳴く虫を確認しました。



⑧ 松原尚志 主任研究員
熊本県天草諸島の約4700万年前の地層から御所浦白亜紀資料館の鶴岡宏明さんと共同でキリガイダマシ科巻貝の新種を発見し、メサリア・ゴショウレンシス（和名：ゴショウラキリガイダマシ）と命名しました。



⑨ 秋山弘之 主任研究員
鹿児島県屋久島は絶滅危惧植物の宝庫です。しかし、近年ヤクシカが増えすぎてその多くが個体数を減らしつつあります。地元の人たちの要請を受け、3年間の予定でコケ植物の被害状況を全島に渡って調査しています。



⑩ 三枝春生 研究員
ケニア、ナイロビとエチオピア、アディスアベバにある両国の国立博物館で、ゾウの化石(1000万～100万年前)を研究しました。写真はケニア国立博物館の取蔵庫の様子です。棚から床まで化石が満杯、古生物学者のパラダイスとしか言いようがありません。



⑪ 秋山弘之 主任研究員
2002年から10年計画で、ミャンマー国内のいろいろな場所で植物の調査を行っています。西部のナマタン国立公園にある3000mの山（英名ピクトリア山）の調査では、たくさん新種が見つかっています。



⑫ 高野温子 主任研究員
2005年11月、マレーシアのサバ州とインドネシアの国境近くにあるLong Pasiaという村に調査に入ったときの写真です。川を遡って原生林を目指しているところです。上流に近い浅瀬では、写真のように船頭さんが川におり、ボートを手で押しつつ進めてゆきました。



⑬ 布施静香 研究員
2005年からスタートした日韓共同研究の一環として、韓国で温帯性単子葉植物を調査しました。韓国は、日本の植物の多様化を調べる上で重要な地域の一つです。現地調査に加え、DNA解析も進めています。



⑭ 加藤茂弘 主任研究員
台湾の921地震博物館内のトレンチ展示を修復・保存処理し、博物館の職員・ボランティアを対象に日本人の地震観について講演しました。日本は地震鯨、台湾は地牛（地下の牛が地震を起こす）だなど、おもしろい談義ができました。



⑮ 橋本佳明 主任研究員
熱帯雨林には多種多様なアリと、アリに擬態した多種多様なアリゴモが共存しています。アリそっくりの形に進化したクモの秘密を探るために半島マレーシアのウル・ゴンバックの森でアリとアリゴモの多様性調査を行いました。



⑯ 高橋 晃 主任研究員
マレーシア・サバ州で国際協力機構（JICA）が支援している生態系保全プロジェクトに参加して、熱帯雨林保全のための研究教育活動をしてきました。現地では森林管理官、レンジャー、大学院生たちの保全意識が高く、熱帯雨林での調査にも熱が入りました。



⑰ 森山洋志 研究員
地域の自然や歴史、生活に関する遺産の保存・育成・展示を通じて、地域社会の発展に寄与するエコミュージアムを兵庫でも展開すべく、フランスで地域展示（写真は伝統的工法による鳩小屋）等の調査をしました。



⑱ 高野温子 主任研究員
2005年6月、ボルネオ島で採集したショウガ科標本の同定のため、イギリス・ロンドンにあるキュー王立植物園の植物標本庫に標本調査に行ってきました。結果、採集した標本の中にショウガ科の新種が含まれていることが判明しました。

編集後記：

本号は今年の2月に開催された発表会「共生の広場」の特集としました。「共生の広場」でも見ることが出来たように、県下ではさまざまなグループや個人が活発に活動しています。一方博物館の研究者も、プロとして相応しい仕事をしなければなりません。去年に続き研究者によるフィールドワークの一端をご紹介します。

(シンクタンク事業室 三枝春生)

ハーモニのバックナンバーは博物館のホームページ
<http://hitohaku.jp/publications/main.html>でご覧いただけます。

人と自然の博物館ニュース
「ハーモニー」No.53

平成18年4月18日
兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL (079) 559-2001 (代表)
FAX (079) 559-2007

博物館ではインターネット上でも情報を提供しています。
URL <http://hitohaku.jp/>